

第2期第4回インクルーシブ教育（支援児包容教育）推進委員会 議事録

□開催日時：平成28年6月17日（金）14：30～17：00

□開催場所：駅北庁舎 4階 災害対策本部室

□出席者（敬称略）

- ・委員：田口明 宇野宏幸 中野正大 柴田勇夫 安藤克己
奥田紳二 小山正子 保母朋子 中宿清美 坂田俊広
横井美代子 若林恭子 瀬瀬育恵
- ・事務局：渡辺哲郎教育長 永治友見副教育長 鈴木稔朗教育次長
高橋光弘 伊藤香代 市原浩代 安井宏治 南谷美和
堀江美鈴 永井清 柳原伸哉

1 あいさつ

教育長

教育委員会としてはこのインクルーシブ教育システムの構築を重点的に取り組んできている。平成28年4月に「障害者差別解消法」が施行されたこともあり、さらに個別の教育支援計画の作成の充実を図っている。平成26～27年度には文部科学省委託事業である発達障がいの可能性のある児童生徒に対する早期支援事業に取り組んできたが、平成28年度は本市が独自で継続をして進めている。本日も忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

2 検討内容

（1）平成28年度の推進計画について

事務局

（平成28年度の推進計画について報告）

① 基本施策1～2の内容について

副委員長

推進計画から事務局が意欲的に取り組んでいることが伝わってきた。多治見市の特徴を生かしてユニバーサルデザインの授業づくりとタブレット端末を活用した早期支援とをリンクさせて進めてほしい。教員にどれだけ浸透しているかについて成果検証も行うとよい。

委員

診察をしている保護者から話を聞くと、教員がまだ十分にユニバーサルデザインの授業づくりについて理解をしてない実感がある。情報の共有がどれぐらいできているかを検証してほしい。

委員

ちょっとした工夫でユニバーサルデザインの授業となる。教員は忙しいが、困難さのあ

る1人の児童のために準備をしたことが、実は他の児童へもよい影響があることを理解すると、もっと取り組みやすくなる。教員への負担が少なくてもやることができることを広めてほしい。

委員

中学校区ごとの個別の教育支援計画作成会議はとても有意義である。合理的配慮について市内の実践を集めて、多治見市のスタンダードを作成するとよい。また、高等学校と中学校間で幼保小連絡会のようなことを組織してみるとよいのではないかと。

委員

児童の一人一人の実態に合わせたプリントを準備するなど本校でも子どもの実態に合わせた指導が行われている。さらにタブレット端末による支援も効果的であることから機器の充実をしてほしい。

委員

タブレット端末は障がいのある大人にも有効な支援方法である。ぜひ、市の予算で広げてほしい。「たじみスマイルブック」は子どもの将来に渡って支援をつなげられるたいへんよいツールである。子どものために活用するという意識を保護者にもたせることができるかと広がるのではないかと。

委員

通級指導教室における在籍校訪問により、集団における児童の様子を把握をしている。在籍校の担任の配慮があると児童はたいへん生き生きとした姿を見ることができる。そのため、ユニバーサルデザインの授業づくりの事例集を活用していきたい。

委員

担任の先生にお願いして合理的配慮をしてもらうのと同時に、周りの児童生徒への理解はどうなっているのか。

委員長

必ず保護者との相談をした上で合理的配慮をしている。さらに、周りの児童生徒へも理由などを伝え理解を促している。

委員

そうしてもらえると合理的配慮が受けやすくなる。また、低学年からそうした合理的配慮があることが当たり前になると児童生徒も受け入れがしやすくなる。

② 基本施策 3～5 について

委員

巡回相談に発達支援センターの職員も関わらせてもらっているので情報共有をして就学相談を連携して進めやすくなった。

委員

巡回相談では特別支援学校も参加することで対象となる子どもの実態把握ができるし、保護者の思いを知ることできる。そのため、受け入れやすくなっている。また、居住地校交流（直接交流）は多治見市の実施率は高い。これは多治見市のインクルーシブ教育システム構築の成果の1つとしてみるができる。特別支援教育コーディネーター部会に高等学校の教員も入れてはどうか。

委員長

幼保小連絡会に私立も加わっている。数年前から考えると本当に進歩している。さらに高等学校に参加してもらえたら本当によいことである。

委員

巡回相談で助言をもらえることで就学相談がやりやすくなった。「たじみスマイルブック」は保護者との良好な関係があって作成の相談ができるものである。困難さのある園児にタブレット端末は有効であるからさらに取り入れていきたい。

委員

発達障がいのある生徒は高等学校へ入学してからたいへんであり、退学をしてしまう生徒は少なくない。そこで高等学校に合理的配慮をお願いして実施してもらっているところもあり、そのおかげで退学しなくて済んだ生徒もいる。

副委員長

合理的配慮をすることの1つの壁に評価がある。合理的配慮をしてどうそれを評価に反映させるかが課題である。ユニバーサルデザインの授業をつくるときに大切なのは何をこそ教えるのかという「ねらい」を絞り込むことである。その上に、細かな配慮がある。「ねらい」をおろそかにしては、ユニバーサルデザインの授業づくりはできない。

委員

難しいことではあるが市としての合理的配慮の基準を設けてそれをどの学校でもやれるようにしていけるとよい。

委員長

評価自体をユニバーサルデザインの考えてやる必要もある。

委員

支援児を育てていない保護者はインクルーシブ教育をあまり知らない。でも共生社会の形成をめざしているのだから、どちらもインクルーシブ教育の意味を理解をして歩み寄ることが本当の共生社会となる。そうした根本の意味理解ところから進めてほしい。

委員

特別支援教育コーディネーター部会の内容を副委員長が大学で専門的に研究をしているので、その監修を受けて、多治見市版の特別支援教育のリーダーの育成をしていくとよいのではないかと。

委員

保護者に障がいについての理解が弱い人もいる。そうした保護者の勉強をもっと進めていくことも大切である。また、放課後デイサービスが増えてきているが、いろんなところが始めていて、内容もまちまちとなっている。児童生徒にとって本当によいものになっているのか心配である。

(2) 進捗状況について

① 個別の教育支援計画の充実について

委員

高等学校への引き継がれた個別の教育支援計画を読んでも生徒の実態や支援が理解できないものとなっている。次の目標設定に使えるものを作成していく必要がある。

委員

診察に個別の教育支援計画を持参する保護者がいるが、読んでもあまり参考にならないものがある。読むと理解ができるものにしてほしい。

副委員長

個別の教育支援計画でうまく支援に活用ができたよい事例を提示するとよい。

委員

長期目標が「困っていることを自分で伝える」というものであった。しかし、場の雰囲気から言葉で伝えられないため、カードで伝えるようにした。そうしたらできるようになった。これはうまく支援に活用できた事例である。参考にしてほしい。

委員長

引き継いだ個別の教育支援計画の中に有効な支援方法が記載されているとたいへんよい。

委員

個別の教育支援計画を作成することはよいことなのにどうしてこんなに合意形成を図れない保護者がいるのか。

事務局

まだ今後の個人懇談で合意形成を図るというものもあった。しかし、保護者の中には障がいに対しての抵抗感があり個別の教育支援計画を受け入れられない人もいる。また、支援を受けてきた結果ずいぶん支援が不要となったから作成を終了したいという保護者の要望もある。

② 支援の連続を図る関係機関の連携の充実について

委員

療育を実施している園児などには積極的に進めていけばよいことが分かった。学校へ園児のことを知ってもらえるというメリットを伝えていけるとよい。

委員

入学前に引継ぎ会をしたことで、とてもスムーズに入学まで迎えることができた。

委員

入学したと同時にすでに児童に関わる多くの情報があるためすぐに支援をスタートできる。保護者の中にはファイリングをすることが難しい人もいる。そうした保護者への支援が必要である。

委員

不安なまま入学を迎える保護者もいるので、この引継ぎ会はそうした保護者にもたいへん有効である。

委員

いろんな情報が綴ってあってもその内容を理解していない保護者も少なからずいる。ていねいな説明も必要である。

委員

文章からの子どもをイメージするのはなかなか難しいものである。実際に合って話をするとするのはとてもよいことである。

③ キキョウスタッフ（支援員）の効果的な配置と研修

委員

障がいに対する理解は支援を進める上でとても大切である。障がいについて理解がない周りの保護者へも理解を促していくことが必要である。

④ 保護者への早期からの情報提供をするについて

（3）その他

事務局

（放課後デイサービスの本市の現状について報告）

委員

それぞれの放課後デイサービスによって本当に質が違っている。支援のレベルがあまりにも違うため不安である。月1回程度の状況を交流する会議を事業所が行っているが、市も何か手だてを考えてほしい。

委員

放課後デイサービスは、障がいのある児童生徒をもっている家庭はとてもありがたい制度である。市としても支援の質の違いについても関心をもって進めていってほしい。

3 次回

第5回は 10月に実施予定

4 あいさつ

副教育長

支援が必要な児童生徒のために10年間かけてキキョウスタッフを少しずつ増員してきた。今後も子どもために続けていきたい。今日は貴重なご意見をありがとうございました。